



## H29 活動内容

「雷別ドングリ倶楽部」は、過去にトドマツ人工林が気象害により立ち枯れし、笹地となった雷別地区国有林の自然再生活動（広葉樹の森林づくり）に参加頂いているボランティアの方々の集まりです。



平成 29 年度は新規会員 3 名を含めた 22 名で、以下の取組を実施しました。



### 第 1 回 平成 2 9 年 6 月 8 日「広葉樹苗木の植樹」【参加者 17 名】

雷別地区国有林で、広葉樹苗木（ハルニレ、ヤチダモ、ミズナラ）の植樹と野生動物による食害対策として、植生保護管（ツリーシェルター）の設置を行いました。

植栽は前年度と同じ 200 本でしたが、ツリーシェルターは全ての植栽木に設置（前年は半数の 100 本）したため、全ての作業を終えることが出来ず次回の活動に持ち越しとなってしまいました。



植樹作業



ツリーシェルター設置作業



## 第2回 平成29年7月12日「植生保護管（ツリーシェルター）設置他」【参加者15名】

雷別地区国有林で、第1回目の活動で未了となった野生動物による食害対策としての、植生保護管（ツリーシェルター）の設置と網目の



細かい野生動物の侵入防止網の設置作業を行いました。



雷別地区国有林は内陸地方の気象の影響を受け、30度越となった猛暑の中での作業となりましたが、会員の皆さんは汗まみれになりながら黙々と作業に従事して頂きました。

熱中症の危険を回避するために、午後からは予定を変更してパイロットフォレスト内での森林散策等に切り替えましたが、夏の暑い1日会員の皆さんの協力に感謝申し上げます。



ツリーシェルター設置作業



ツリーシェルター設置作業



食害防止網設置作業



食害防止網設置作業



### 第3回 平成29年7月26日「植生保護管（ツリーシェルター）設置他」【参加者11名】

5月26日に実施した「雷別へ植樹に行こう」のボランティア植樹において、一部未了となった野生動物による食害対策としての、植生保護管(ツリーシェルター)の設置と第2回目の活動の網目の細かい野生動物の侵入防止網の設置作業を引き続き行って頂きました。

前回ほど気温は上がらなかったものの、釧路市内の気温より数段高い中での作業でもあり参加した皆さんにたっぷり汗をかいてもらいました。



ツリーシェルター設置作業



ツリーシェルター設置作業



食害防止網設置作業



食害防止網設置作業



## 第4回 平成29年9月13日「海岸林視察」 【参加者14名】

標茶町雷別国有林から離れ、今年は、釧路町東部の太平洋沿岸部から厚岸町までの沿岸に沿って発達する海岸段丘・海食崖などで構成される厚岸道立自然公園内の国有林の視察を行いました。



太平洋を望む景観はすばらしく地球は丸いことを再確認することが出来、シレバ岬からの厚岸湾の景色を堪能し、国有林の木々は太平洋から吹き付けられる強風により不思議な形で伸びていました。

帰路の途中、釧路町の仙鳳趾村にある仙鳳禅寺の本堂の前で大きく育っている「双龍杉」を成澤住職の解説付きで見学させて頂きました。



キトウシ野営場から太平洋を望む



シレバ岬から厚岸湾を望む



「双龍杉」(正面中央左右の2本)



成澤住職の解説風景



## 第5回 平成29年11月1日「下刈り作業、パイロットフォレスト視察」【参加者13名】

年間計画では、伐採作業現場とパイロットフォレストの視察を予定していましたが、伐採現場へはバスが入れず断念。

今年度、第2回目と第3回目の活動で下刈りを予定していた箇所が、野生動物の食害防止対策の植生保護管(ツリーシェルター)設置を優先したため、下刈りが未了となっていた箇所の作業を行っていただきました。



この場所は、平成26年度のドングリ倶楽部の活動で設置頂いた防鹿柵内で、平成27年、平成28年の活動で草刈りを行って頂いた結果、ササの勢力が弱まり、シラカンバの実生苗が発生した箇所で、下刈りの時期は逸していましたが、来年の更なる成長を期待して会員の皆様に一汗流して頂き、その後、昨年発見した釧路川支流にあたるシラルエトロ川の源流部となる『小さな滝』を見学。

午後からは、パイロットフォレストに移動し、高くそびえる望楼から、黄金色に染まった広大なカラマツ林の展望を楽しんでいただき、冬に近づきつつある1日を2つの森林で有意義に過ごして頂きました。



鹿柵内の草刈り作業



黄金色のパイロットフォレスト(望楼)から



名無しの滝



滝の拡大写真

わき出し口



## 第6回 平成30年2月14日「雷別地区自然再生事業の取組状況の学習会」【参加者16名】

標茶町雷別地区国有林の森づくり活動（自然再生活動）を行うボランティア組織「ドングリ倶楽部」が、今年度最後となる第6回目の活動を根釧西部森林管理署会議室で行いました。

前半は、今年度の活動を振り返り、会員の意見の確認を図りながら次年度の活動計画の検討を行い、会員より、時期的に暑い日の作業は大変であるが、木の育成に必要な作業であれば、体調を自己管理しながら出来る範囲で進めて行くべきとの森林再生の志の高い意見も出され、次年度の計画を確定しました。

後半は、ドングリ倶楽部の会員が汗水流しながらご尽力いただいている、雷別地区自然再生事業の目的は釧路湿原の環境を保全するため、湿原に流れ込む河川の水量を安定させるための森林再生であり、そのために、枯損被害を受けたトドマツ人工林跡地を、人手が入らない以前の姿の森林（自然林）へ戻し、水土保持機能を高めるために広葉樹の植栽を皆さんに行って頂いている。

しかし、せっかく植えた苗木が、冬期間に野生動物の食害を受けて生育が芳しくないこと。食害は当初エゾシカが主因と思われ、食害防止策を行ったがその後も食害は減少せず、よく観察するとエゾユキウサギによる食害であったことを確認し、食害防止のツリーシェルターの設置を皆さんに行って頂いている。等について説明しました。

会員の皆さんは、過去に苦勞して植えた苗木が順調に育っていないこと、その要因がエゾユキウサギであったことを改めて承知される方もおり、食害防止の重要性について改めて認識して頂きました。

「雷別ドングリ倶楽部」については、毎年度新規会員を募集しておりますので、活動に興味のある方の参加をお待ちしております。

